

Ⅲ. 都市計画マスタープランの目標

1. 上位・関連計画

(1)「第2次京丹後市総合計画」の概要

基本理念

自治と協働によって進めるまちづくり

目標

- ① 歴史・文化、地場産業等の地域資源を活かしたまち
- ② 美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまち
- ③ 健やかで生きがいのある暮らしを実現するまち
- ④ 安全で安心して暮らせるまち
- ⑤ お互いに支え合い、助け合うまち
- ⑥ 次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいだき、いきいきと成長するまち
- ⑦ 誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまち

将来像

ひと みず みどり 市民総参加で飛躍するまち
北近畿新時代へ和のちから輝く 京丹後

10年後（平成36年）の人口フレーム

活力人口： 56,000～66,000人

定住人口：50,000～60,000人

交流人口：6,000人（年間220万人）



定住の促進

“住んでみたい”を実現する基盤整備

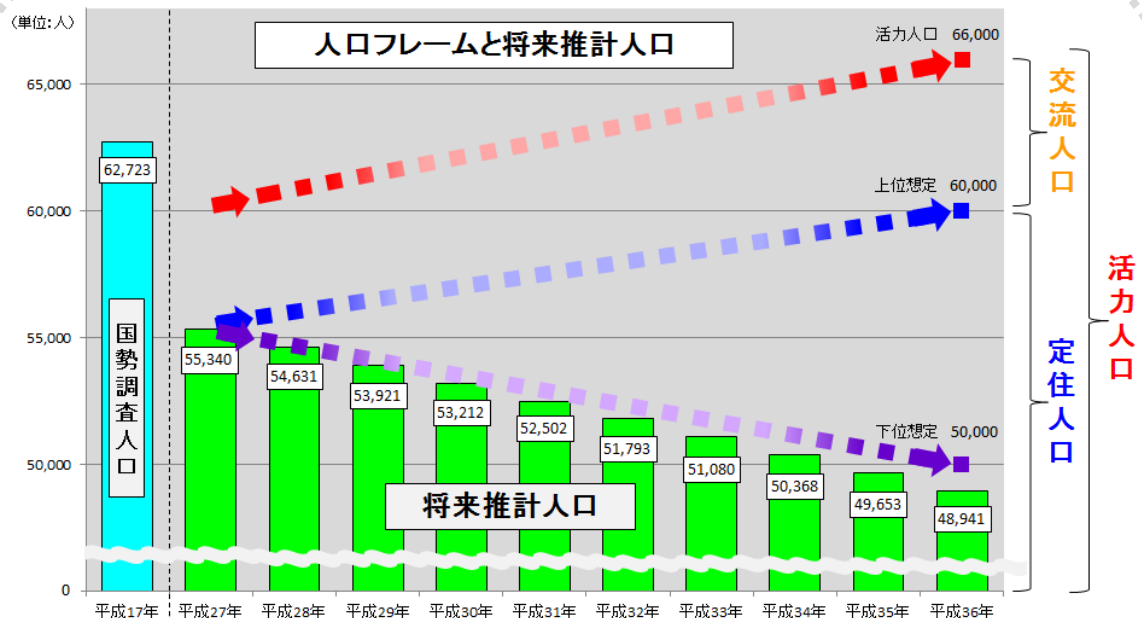
- 雇用の確保と住環境の整備
- 安全・安心なまちづくり
- 子育て支援と医療体制の充実
- 教育環境の充実
- 公共交通等のインフラ整備 など

交流の促進

観光・産業振興、大学連携等による交流人口の拡大

- 山陰海岸ジオパークを活かした観光振興
- 体験型・四季型・滞在型観光の推進
- スポーツやイベントを活かした観光振興
- 経済戦略・産業活性化による交流の促進
- 大学や企業、団体との連携交流 など

人口フレーム設定の考え方



将来推計人口年齢階層別内訳

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
0-14歳	6,670	6,451	6,232	6,012	5,793	5,574	5,430	5,287	5,143	5,000
15-64歳	29,300	28,837	28,373	27,910	27,446	26,983	26,525	26,067	25,608	25,150
65歳以上	19,370	19,343	19,316	19,290	19,263	19,236	19,125	19,014	18,902	18,791
合計	55,340	54,631	53,921	53,212	52,502	51,793	51,080	50,368	49,653	48,941

出典：将来推計人口＝国立社会保障・人口問題研究所

(2)「京丹後都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の概要

都市づくりの基本理念

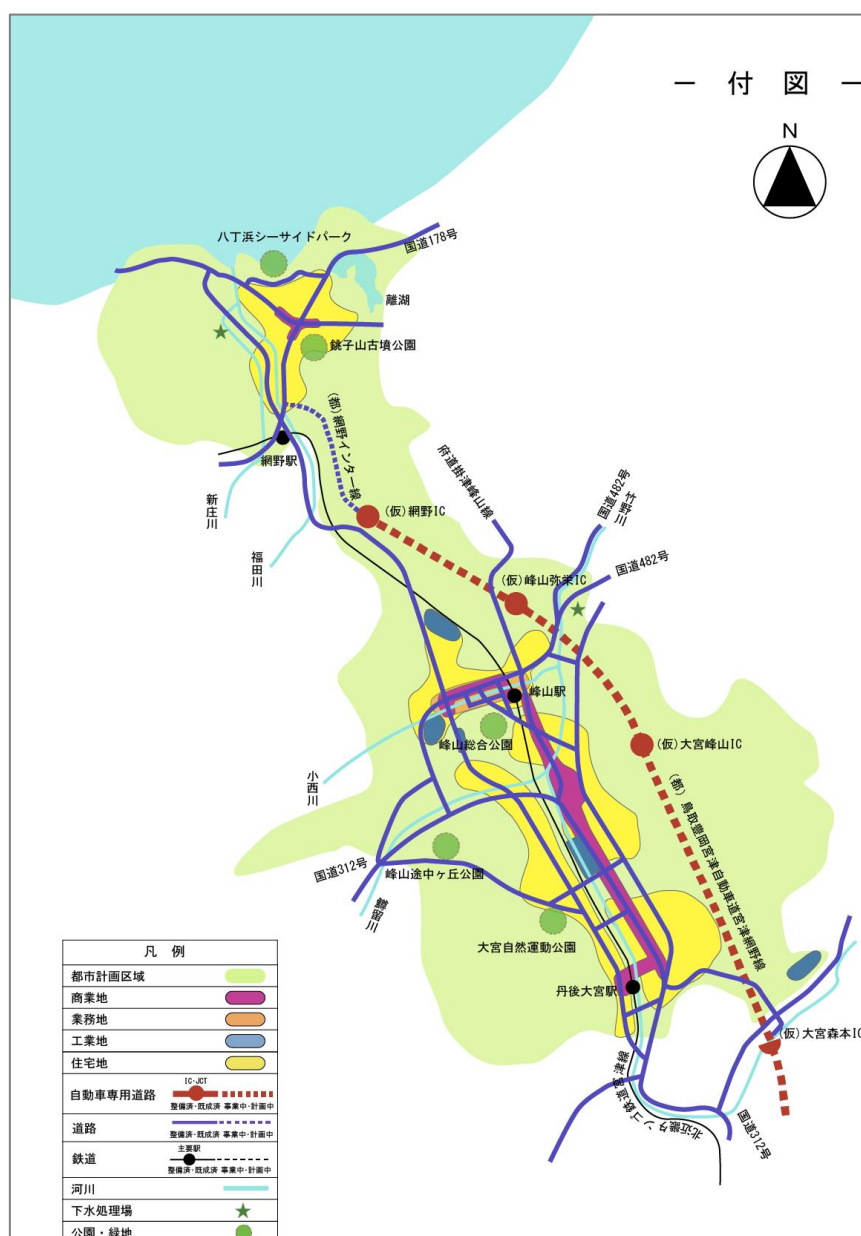
- ①他都市地域との広域的な連携と交流を推進する都市づくり
- ②地域特性や地域資源を活かした個性のある都市づくり
- ③環境への負荷の軽減を図る環境にやさしい都市づくり
- ④だれもが安心・安全で健やかに暮らすことができる良好な住宅・住環境のある都市づくり
- ⑤都市基盤整備等これまでに培ってきた成果を活かした都市づくり
- ⑥中心市街地の賑わいと広域交流拠点のある都市づくり
- ⑦広域交通網の整備を活かした産業基盤のある自立した都市づくり
- ⑧住民、民間、行政等の協働による魅力ある地域社会を実現する都市づくり
- ⑨自然及び歴史的環境の保全・活用や美しい景観のある都市づくり

区域の将来像

- ◆歴史・文化、地場産業等の地域資源を活かした都市
- ◆安全で安心して暮らせる都市
- ◆美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承する都市

区域区分

人口、産業規模等の都市的集積度が小さく、人口が減少傾向にある中、今後大幅な都市的集積度が増加することは望めないことから、それぞれの地域の実情に応じた土地利用規制及び都市基盤整備が必要なため、本都市計画区域には区域区分を定めない。



※(仮) IC名称、駅名及び鉄道路線名が現在と異なりますが、当該計画資料のとおりとしています。

(3) 関連計画の概要

●京丹後市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

基本的視点

- ・ 4つの基本的視点から取り組む
 - ①若年層・壮年層を中心とした人口流入の促進
 - ②若年層の人口流出の抑制・歯止め
 - ③若い世代(結婚・出産・子育て世代)の就労・結婚・子育てなどの生活環境を快適に整備
 - ④高齢者層をはじめとした健康長寿の一層の推進と市外からの定住化の促進
- ・ 「地域再生計画」、「地方創生特区」等を積極的に活用した戦略により進める

●京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本的な考え方

- ・ 人口減少と地域経済縮小の克服
- ・ まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立と総合戦略

4つの基本目標と取り組み

- ①本市にしごとをつくり、安心して働けるようにする
 - (ア) 本市経済雇用戦略の企画・実施体制の整備
 - (イ) 新経済戦略による「新グリーン経済」の構築
 - (ウ) 農林水産業における新規就業者の促進
 - (エ) 伝統産業の再生と未来型グリーン産業の創造
- ②本市への新しいひとの流れをつくる
 - (ア) 四季を通じた滞在型観光の促進とスポーツによる交流推進
 - (イ) テレワークによる雇用形態の多様化と地元就労の拡大
 - (ウ) 京丹後市夢まち創り大学を核とした域学連携の推進
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - (ア) 若者の就職支援と後継者の育成
 - (イ) 結婚・妊娠・出産・子育てまでの一貫した支援
 - (ウ) 未来を拓く学校教育の充実
 - (エ) 子育て支援によるワーク・ライフ・バランスの実現
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
 - (ア) 社会的孤立者の日中の居場所・社会参加や就労支援の拠点整備
 - (イ) 公共交通空白地の解消に向けた新たな輸送システムの構築
 - (ウ) 生涯現役で活躍する健康長寿社会の形成
 - (エ) 再生可能エネルギーの地域全面展開と地産地消
 - (オ) 都市機能構想による軸・ゾーン・拠点の形成
 - (カ) 空き家対策と既存ストックのマネジメント強化
 - (キ) 広域連携による経済の活性化
 - (ク) 地域ぐるみによる消防・防災体制の充実
 - (ケ) ふるさとづくりの推進

2. 都市計画マスタープランの目標

(1) 将来都市像

本マスタープランは、総合計画の都市機能構想を進めるための計画と位置づけており、土地利用計画と都市施設の整備により、人口減少の克服、定住や交流の促進、更には市民総活躍社会の基盤を創ることを目的としています。

また、総合計画において「現在整備中である高速道路網と連携した広域ネットワークの形成により、都市圏との時間距離を短縮し地域の活性化を進めること」、「北近畿の中心に位置する本市の立地特性を生かし、他市との連携強化を図ること」としていることから、まちづくりにおける将来都市像を、以下のように設定します。

将来都市像

人と経済・文化が交流する
活力あふれる北近畿の拠点都市

(2) 将来人口フレーム

総合計画では、定住人口、交流人口に加え、新たに活力人口を設定し、平成36年における定住人口を50,000～60,000人、交流人口を6,000人とし、活力人口として56,000～66,000人と設定しています。

本マスタープランの目標年次は、平成36年度までとし、総合計画で掲げた人口フレームをもとに、都市計画区域内の人口フレームを設定します。

「第2次京丹後市総合計画」における
市全体の将来人口フレーム

活力人口 56,000～66,000人

定住人口 50,000～60,000人

交流人口 6,000人/日



「京丹後市都市計画マスタープラン」における
都市計画区域内の将来人口フレーム

活力人口 26,000～30,000人

定住人口 23,000～27,000人

交流人口 3,000人/日

※定住人口は、市全体の人口フレームと、H22 国勢調査における都市計画区域内人口比率を基に設定

※交流人口は、H26 の町別観光入込客数の内、都市計画区域のある3町の実績を基に将来予測値を設定

3. 目標の実現に向けた4つの視点

本市では、「人口減少の克服」、「定住・交流の促進」、「市民総活躍社会の基盤創り」を、これからのまちづくりにおける重要課題と考えています。そのため、課題の実現に向けては、総合計画及び「京丹後市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策理念に沿った4つの視点をもって取り組みを進めます。

1. しごとの基盤づくり

若い世代のしごとや生活への夢が叶えられる「まち」を目指します。

高速道路網、港湾などの産業・社会インフラが飛躍的に向上する中、本市の伝統的な産業基盤の維持・発展と今の産業を守り活かすことを基礎としつつ、さまざまな地域資源を活用して、各産業の成長・発展を促進するとともに、農商工観連携や京丹後型ワークスタイルの創造を融合させた京丹後型「新グリーン経済」を構築することで、地域経済の活性化を目指します。

2. 交流の基盤づくり

人と人との交流し、笑顔があふれる「まち」を目指します。

恵まれたふるさとと資源を地域ぐるみで守り、育てる観光を展開し、訪れる人に「本物」を提供するとともに、京丹後ならではの温かなおもてなしなど、「極上のふるさと」を目指した取り組みを行います。更に、市外等から多くの参加者・観戦者が期待できる「スポーツツーリズム」の推進や、文化・芸術に親しむ環境整備を進め、商業・産業・文化など諸機能の重層的かつ複合的な集積により、交流人口の増加を図ることで、市内経済の好循環を図ります。

3. くらしの基盤づくり

子育て世代やお年寄りなど、世代を問わずだれもが包摂され、いきいきと快適に暮らせる「まち」を目指します。

生涯現役で活躍する健康長寿社会の形成や、結婚・妊娠・出産・子育てまでの一貫した支援、未来を拓く学校教育の充実に向けた取り組みを進め、若い世代からお年寄りまで、世代を問わずいきいきと快適に暮らし続けることのできるまちを目指します。

4. 安全・安心の基盤づくり

だれもが安全で安心して生活できる「まち」を目指します。

地震など大規模な自然災害に備え、市民や本市に訪れる人の生命を守ることができるよう防災・減災意識を高め、迅速・安全に避難するための取り組みを支援するとともに、道路・橋梁等の都市基盤の強化や河川改修等の治水対策による防災基盤整備を推進し、安全・安心なまちづくりを進めます。

4. 将来都市構造のあり方

《都市構造》

鳥取豊岡宮津自動車道（以下「山陰近畿自動車道」という。）や国道312号など、本市の南北軸となる主要な道路とその沿道、また、駅周辺を基本として、総合計画の都市機能構想による「軸・ゾーン・拠点」を設定し、土地利用計画と都市基盤整備を進め、公共交通ネットワークの充実による、多極ネットワーク型のまちづくりを進めます。

1. 【軸】の設定

広域連携軸

山陰近畿自動車道の全線事業化を促進し、インターチェンジ周辺地域において、利便性向上に向けた整備を進めるとともに、近隣市町と連携を図りながら、人と経済・文化が交流する活力あふれる都市を目指します。

地域連携軸

国道178号、312号、482号や主要な府道は、地域を結ぶ地域連携軸と位置付け、更なる道路整備を促進するとともに、路線バスや鉄道などによる公共交通ネットワークの充実を図り、市内地域間における連携強化を図ります。

2. 【ゾーン】の設定

都市活動ゾーン

峰山町、網野町及び大宮町の中心市街地、国道312号と482号が交わる市街地付近を「都市活動ゾーン」とし、都市・地域拠点を活かした職住近接の利便性の高い生活環境を築くとともに、公共交通を中心とした魅力ある都市空間を創出します。

保全・共生ゾーン

都市活動ゾーンをとりまく水辺やみどりの空間を「保全・共生ゾーン」とし、豊かな自然環境の継承、水辺環境の保全、里地里山の再生など、人と自然の共生を図ります。

3. 【拠点】の設定

都市拠点

駅を拠点とした都市基盤整備を推進し、国道312号と482号の交差点付近を都市拠点と位置付け、居住、商業、芸術文化、娯楽、交流など、多くの人が集まる本市の拠点にふさわしい都市機能の集積を図ります。

地域拠点

市内各町においては、行政施設を核とした一定の都市を形成しているため、その「地域の顔」となる市街地機能を継承しつつ、地域資源を活かしたまちづくりを進めるとともに、日常生活に必要な諸機能を集積し、地域拠点としての活性化を図ります。

《将来都市構造図》

